

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

九州北部豪雨災害 緊急支援 活動報告書

実施期間 2012年7月15日～8月9日
活動場所 大分県竹田市、熊本県阿蘇市

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト/English site] <http://peaceboat.jp/relief/>

必要とされたのは、 地元とボランティアをつなぐ現場のリーダー。

2012年7月、ピースポート災害ボランティアセンター(以下、PBV)では、九州北部地域を襲った記録的な豪雨災害に対して、大分県竹田市、熊本県阿蘇市にて、緊急支援を実施しました。ボランティアの活動としては約3週間という期間でしたが、2011年11月より取り組みを始めていた「災害ボランティア・リーダートレーニング」の修了者が駆けつけてくれたことで、住民の方々や現地機関との連携・協力体制がスムーズに進みました。

炎天下での泥だしや清掃作業は想像以上に重労働で、被災された住民の方々にとって大きな負担でした。また、降り続く大雨で再び河川が氾濫しないか、という精神的な不安もありました。そんな中、被災地内外から、多い時には1日400名以上のボランティアが参加し、毎日活動することができました。



大分県竹田市、熊本県阿蘇市の被害状況

九州北部に位置する大分県竹田市、熊本県阿蘇市は阿蘇外輪山に接し、湧水が豊富な日本有数の名水の里です。水量が豊富なこの地域では、過去にも大雨による被害が出ています。

両市でも「災害対策本部」が設置され、社会福祉協議会が運営する災害ボランティアセンターが立ち上がりました。地元住民からのニーズに対し、周辺地域から熱意を持ったボランティアが集まってきましたが、ボランティアの作業現場での安全管理や、作業内容の把握が追いついていない状態でした。

大分県竹田市被害状況



人口 24,648人 (10,548世帯)
死者 2人
全壊・半壊家屋数 41棟
浸水(床上・床下)家屋数 210棟以上

熊本県阿蘇市被害状況

人口 28,444人 (10,100世帯)
死者 21人
全壊・半壊家屋数 1,127棟
浸水(床上・床下)家屋数 4,230棟



※竹田市、熊本県、阿蘇市 HP より

プロジェクトの概要・実績

PBVでは、九州北部での水害発生を受け、7月15日に被害を受けた域へボランティアコーディネーター、セーフティーオフィサーの2名が現地入りしました。土砂崩れや河川の氾濫による交通網の分断により、支援の届きづらくなった地域を視察し、大分県竹田市での活動を始めました。街頭募金など、プロジェクト資金を集めながらの活動。交通費は自己負担での現地合流をお願いしながらのボランティア募集でしたが、2011年11月から実施していたPBVの「災害ボランティアリーダートレーニング」修了者や、九州地方からもたくさんの方が駆けつけてくれました。



ボランティア派遣人数 41 人(日別ボランティア総活動人数 212 人)
土砂のかきだし、清掃実施 家屋内 23 件、ほか側溝・土手の清掃など
竹田市災害ボランティアセンター運営サポート ~最終日まで

ボランティア参加者の声



大分県竹田市、熊本県阿蘇市での支援にあたりましたが、いずれも「東北の支援に行きたかったけれど、あまりにも遠くへ行けなかった」という気持ちを持って集まった方が多かったようです。この地域は、湧水や温泉が多く、雨も多い土地でした。竹田市では、川の増水で溢れた水が家屋を襲い、阿蘇市では外輪山のあちこちで沢に伝って山崩れを起こし、その土砂が家を襲うという被害の違いを感じました。

亀田博之さん(東京都在住、47歳)



竹田駅に着くまでの間に、川が溢れた跡や流されかけた橋などがあり、衝撃を受けながら現地に入ったことを覚えています。ちょうどボランティアセンターの撤収作業があったのですが、そこでの活動も含め、ボランティアが実際に活動するには多くの方の努力と苦労があると感じました。3日間という短い期間でしたが、私の住んでいる九州での災害復興に微力ながらお手伝いすることができ、嬉しかったです。

渡部裕子さん(福岡県在住、21歳)

活動カレンダー

7月	11日	九州北部地方へ集中豪雨が発生
	12~14日	熊本、大分、福岡の各地域へ避難指示が発令。河川の氾濫や土砂崩れが発生
	15日	先遣スタッフ2名が熊本県阿蘇市へ到着
	18日	台風7号が九州地方へ近づく
	19日	支援先を大分県竹田市に決定。ボランティア募集を開始
	20日	宮城県石巻市より、資機材を載せたトラックとボランティア11名が到着
	21日	PBVボランティアサイトの整備、災害ボランティアセンター(災害VC)への資機材の搬入
	22日	ボランティアによる本格的な清掃活動を開始 竹田市災害VCのサポート業務を開始
	28日	竹田市災害VCが総合運動公園から、社会福祉協議会に移動
8月	1日	台風10号の接近により活動を一時中断
	3日	熊本県阿蘇市にてボランティア活動を開始
	9日	竹田市災害VCが閉所。PBVボランティア解散

熊本県阿蘇市からの声

「北坂梨を元の姿に戻せるように、自分も頑張らないと」

阿蘇市北坂梨に暮らす岩下さんは、PBV のボランティアが活動最終日までの5日間、清掃に入ったお宅。今回の記録的豪雨により、浸水の被害に。「畑が滝のようにうねっていて恐ろしかった…。岩下さんが暮らす北坂梨地区に避難勧告が出たのは深夜 2 時。その後、避難指示が発令され避難を考えたものの、道路が濁流により寸断され身動きが取れませんでした。不安の中で、浸水していく家で一夜を明かすことになったそうです。

岩下さん宅でお手伝いした作業は、浸水により家屋内に入った泥や壊れた家財道具の運び出しなど。もともとは、ボランティアにお願いする予定はなかったそうですが、近所の方々の家がボランティアの手によって綺麗になっていくのを見て、依頼することを決めたそうです。「主人は体に障害もあり、自分たちだけではどうしようもなかった」という岩下さんは、毎日綺麗になっていく自宅を見て、少しずつ落ち着きを取り戻していきました。インタビューの最後、岩下さんから「北坂梨を元の姿に戻せるように、自分も頑張らなけいと。本当に感謝してもきれない」とボランティアへのねぎらいのお言葉をいただきました。

被災地を訪れる度に感じるのは、初めから「助けて」と依頼される方はそれほど多くなく、活動を進めることでニーズが生まれていくということ。被災された一人ひとりの心境の変化も汲み取り、臨機応変に対応していく姿勢が大切だということに改めて気付かされました。



竹田市社会福祉協議会 久住支所長

水野匡也 さん



私自身、ボランティアコーディネーターまたは災害ボランティアセンターの運営支援者としていくつかの災害現場の社協(社会福祉協議会)に応援に入ったことがあります。その時は、自分はよそ者なので、できる限りその土地に元々あった文化などを壊さないように心がけながら活動してきました。そこで、「ありがとう」と言われても、「本当に役に立ったのかな?もっとできたんじゃないか?」と感ずることもありました。

今回、逆にボランティアを受け入れる側の立場になって、正直、右往左往した部分もありましたが、全国から色々な人が集まってくれ、「人が応援に来てくれるだけでも本当に嬉しいんだ」と気付きました。そして地元の人たちが自分たちで頑張ろうという底力も見た気がします。人の支援のありがたみを実感しました。



ご協力いただいた企業・団体（順不同、略称表記）

竹田市役所／竹田市社会福祉協議会／阿蘇市社会福祉協議会／あ祖母学会

その他、物資提供やご寄付など、個人の方々からもたくさんのご協力をいただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に感謝申し上げます。

収支報告

(円)			(円)		
収入	寄附	797,915	支出	旅費交通費	670,368
	街頭募金	253,450		重機オペレーター派遣、人件費	250,000
	ボランティア	52,000		消耗品、備品代	21,872
	自己負担金			通信費	390
	合計	1,103,365		コーディネーター派遣、人件費	180,000
		合計		1,122,630	

活動を振り返って



ピースポート災害ボランティアセンター
九州北部豪雨 緊急支援
ボランティアコーディネーター

鈴木省一

宮城県石巻市の活動を他のメンバーに託し、資機材を積んで竹田市に入りました。驚いたのは、被害の大きさもさることながら、災害ボランティアセンターに集まってくる人の多さと熱意でした。もちろん災害の規模や地域にもよると思いますが、全国で災害ボランティアという存在が定着しつつあるんだと実感しました。

同時に、そのはじめて参加するボランティアと一緒に作業の現場に出て、彼らの安全を注意しながら効果的に作業をする、また被災された住民の方々とコミュニケーションができる人材の必要性を、改めて感じる機会になりました。今回、僕自身もトレーナーとして関わっている「リーダートレーニング」の修了者がいたことで、ニーズとボランティアをマッチングする災害ボランティアセンター、そしてマッチングされた後のボランティアリーダーの活動の役割と責任分担が明確になり、新しい連携の仕組みを探ることができました。

今回は、立て続けに台風が通過し、天候面での悪条件もありましたが、それよりも資機材や初期リーダーを石巻から合流せざるをえず、本格的に活動を開始できたのは発災から9日後。将来の災害に備え、スタッフだけでなく、もっとボランティアの初動を早めるために、全国各地にその自覚を持ったリーダーを育てていくことがこれからの課題だと思います。

最後に、温かく僕たちを受け入れてくださった竹田市や阿蘇市の皆さんをはじめ、ボランティア活動への参加や募金へのご協力など、活動を支えていただいた方々に、この場を借りて、心より御礼申し上げます。

「サポート会員」になって、 PBV の運営を支えてください。

東日本大震災への被災者支援・復興支援をはじめ、国内外の自然災害における救援活動の初動資金、災害ボランティアの人材育成プログラムの実施には、PBV の運営に対する継続的な支援が必要です。皆様からの会費は、PBV の運営を財政的に支える基盤になります。

●サポート会員（1年間）

個人 一口 5,000 円

団体 一口 100,000 円

※二口以上のご協力も可能です。

●会員特典

- ・季刊誌「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます。

●ご協力方法の詳細は

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

「ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）」

PBV は、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースポート」が設立した一般社団法人です。ピースポートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。現在は、宮城県石巻市での復旧・復興支援を中心に、災害ボランティアの育成や普及にも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

九州北部豪雨災害 緊急支援 活動報告書

発行：一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター

編集：上島安裕、合田茂広

発行日：2012年10月31日

写真：鈴木省一

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL:03-3363-7967 FAX:03-3362-6073

E-MAIL:kyuen@pbv.or.jp

URL: <http://pbv.or.jp/>